

学生募集を行う教員紹介

1. 教育学_板宮朋基
2. 解剖学_天野カオリ
3. 環境病理学_槻木恵一
4. 口腔生化学_半田慶介
5. 口腔衛生学_山本龍生
6. 法医学_長谷川巖
7. 糖尿病・内分泌内科学_青木一孝
8. 高血圧症・腎臓内科学_橋本達夫
9. 歯内療法学_室町幸一郎
10. 歯周病学_小牧基浩
11. 有床義歯補綴学_井野智
12. 口腔外科学_末永英之
13. 歯科矯正学_山口徹太郎
14. 口腔再生インプラント学_黒田真司
15. 小児歯科学_仲井雪絵
16. 歯科麻酔学_脇田亮
17. 障害者歯科学_小松知子
18. クリニカル・バイオマテリアル学_二瓶智太郎
19. 口腔デジタルサイエンス学_星 憲幸
20. 高度先進口腔外科学_西久保周一

教育学分野 (Department of Dental Education)

指導教授：板宮 朋基 (Tomoki Itamiya)

連絡先: itamiya@kdu.ac.jp

研究プロフィール

神奈川歯科大学大学院 XR 研究所 所長
日本シミュレーション外科学会 理事
日本顎顔面再建先進デジタルテクノロジー学会 理事
日本デジタル歯科学会 代議員
日本解剖学会 正会員
芸術科学会 理事・論文委員
災害情報学会論文誌編集委員
システム・アプリ関連の成立(登録)済み特許 4 件

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

VR(バーチャルリアリティ)とAR(拡張現実)の総称であるXR技術の基礎を学び、歯科医学・歯科医療に応用できるシステムを立案し、アプリを自身で開発できるようになる。アプリの評価を行い、成果を論文投稿できるようになる。

座学で基礎理論や最新の応用事例を学修した後、最新のデバイスの数々を体験する。各自のPCに開発用ソフトウェア(Unity等)をインストールし、XR用アプリの開発方法の基礎を習得する。各自が開発したプロトタイプアプリを最新のデバイス上で実行し、履修者同士が体験し合う。歯科医学教育や臨床における活用を目指してブラッシュアップを行う。倫理申請を経て、歯学部や附属病院において学生や歯科医師を対象にした評価を実施する。論文など学術的な成果に加えて、特許取得や企業と協業した製品化・商品化を目指す。

研究内容

▶ 裸眼立体視と力触覚技術を併用した遠隔歯科補綴学実習システムの開発

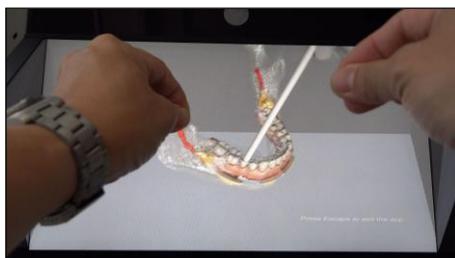
ゴーグルなどのデバイスを装着せず高精細な立体視が可能な空間再現ディスプレイと触覚再現デバイスを併用し、リアルな3D-CGで再現された口腔内の歯牙を手指の動きでバーチャル器具を操作して切削できるシステムを開発している。切削時の感触もリアルに手元に伝わる。

▶ 裸眼立体視と力触覚技術を併用した歯磨き教育支援システムの開発

口腔内スキャナーで取得した患者さんの口腔内3D-CGモデルを裸眼立体視表示させ、実際のブラッシング操作を様々な視点からリアルタイムに確認できるシステムを開発している。磨き残しの範囲を数値で定量的に示せるため、指導に有用であることが示唆されている。

▶ VR180 立体映像を用いた実習支援システム

8Kの高解像度で立体映像が撮影できるCANON VRシステムを活用し、実習の全過程を自動撮影してHMDなどで疑似体験できるシステムを開発し、教育に実用している。



社会人に対しての特記事項

近年発展が著しいVR/AR技術と具体的なアプリ開発方法を体系的に学修でき、皆さんの研究や将来の進路に活かすことができるようになります。XRの歯科分野での応用についての事例はまだ多くないため、新規性の宝庫で論文化しやすいです。Apple Vision Pro、3D Systems Touch、ソニー空間再現ディスプレイELF-SR1/2、Acer Spatial Labs、nubia Pad 3Dなど最新機材を複数用意しています。ソニーやモリタなど大手企業とのコラボレーションも盛んで、研究開発に加えて起業を視野に入れた社会実装の経験を積むこともできます。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

解剖学分野 (Department of Anatomy)

指導教授：天野カオリ (Kaori Amano)

連絡先：amano@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本解剖学会評議員
歯科基礎医学会評議員
日本唾液腺学会評議員
死体解剖資格認定第 8499 号

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

本分野では、研究者として必要な知識とスキルを身につけて、修了後はそのスキルを活かして各方面で活躍できる人材を養成することを目的としています。

指導方法

- 論文の読解力を養うために 1 年目は研究内容に関連する欧文和文論文検索と読み込みを中心に行います。
- 肉眼形態研究に必要な手法 (倫理書類申請について/パラフィン切片作成法/凍結切片作成法/走査型電子顕微鏡用試料作製法/SEM 撮影方法) と動物実験/免疫組織学的観察法と免疫染色について指導します。
- 学会などでのプレゼンテーション能力を高めるよう指導します。
- 論文執筆 (論文構成法と執筆手順) について指導します。

研究内容

ヒト (ご献体) を試料として使用する肉眼形態研究

- SMAS (顔面筋の浅層筋膜構造) の形態学的観察
- 全身のリンパ節分布領域観察 (有病者との比較)
- 大唾液腺管の構造観察
- 神経/血管/臓器のバリエーション (個体差) 観察

動物実験

口腔組織の機械的刺激による細胞膜損傷と修復機構

- 卵巣摘出歯周炎ラットの損傷修復機構—エストロゲンの直接作用と禁忌因子の模索
- 糖尿病ラットモデルに実験的歯周炎を併発した口腔組織の膜損傷と修復機構について

社会人に対しての特記事項

時間的制約の多い社会人大学院生には負担が大きいかもしれませんが、各学生の希望をできるだけ優先して博士取得を目標に修了できるよう最後まで丁寧に指導していきます。

研究テーマの選定時は現職に関連する内容や、これまでの経歴を生かせるように学生の希望を考慮し相談しながら慎重に研究課題を検討していきます。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

口腔生化学分野 (Department of Oral Biochemistry)

指導教授：半田 慶介 (Keisuke Handa)

連絡先: handa@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本歯科保存学会評議員・専門医
日本再生歯科医学会評議員・理事・認定医
日本歯科理工学会・シニアアドバイザー
歯科基礎医学会評議員

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

口腔生化学分野では、歯槽骨再生に焦点を当てた再生療法の実用化研究を進めています。歯周病や根尖病変をターゲットとして間葉系幹細胞と足場材を組み合わせた新規の骨再生医療等製品を開発するため、炎症環境下における細胞機能評価や足場材の新規開発を目指しています。本分野では、研究を通じた論理的思考や生体で起きている治癒や炎症に関わる細胞レベルでの生命現象の理解によって、日常臨床のみならず再生医療実施に必要な分子生物学的な知見や実用化にかかわる法規制の理解を身につけることを指導いたします。

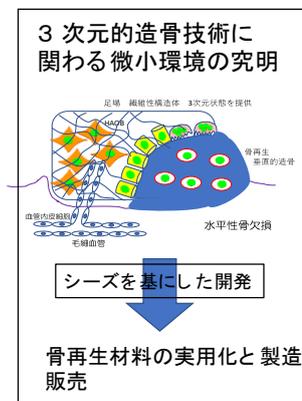
研究内容

▶ 3次元的な歯槽骨再生医療等製品の開発

アンメットメディカルニーズである多数歯欠損による水平性骨欠損に対する細胞を用いた新規の骨再生医療等製品の開発を目指して、骨芽細胞の分化メカニズムの理解や立体的な骨造成が可能な足場材の新規開発をおこなっています。また既存の足場材の改良を含めた企業や他大学との共同研究も盛んに実施しています。

▶ 根尖病変、歯周病モデル動物を用いた歯槽骨再生のメカニズムの解明

根尖病変や歯周病によって失われた歯槽骨を早期に回復できる新規材料の検索や骨再生過程の解明をおこなっています。



社会人に対しての特記事項

本分野は基礎分野であるが豊富な臨床経験を背景に、日常臨床で疑問に思うことや解決したいという欲求に応えることが可能です。臨床の現場（患者の声）を知ることが研究遂行にとって重要であることを認識し、主に細胞レベルで骨再生に関する基礎研究を行い、その成果を患者に届けたいと考えています。また実践する研究テーマは、現在の職種や専門性を考慮し、興味を持てる内容や個人の状況（通学可能な曜日や時間帯、頻度）に応じて選定いたします。在学期間中の学位取得を目標に、研究方法から論文作成、学位取得までお手伝いを行います。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

口腔衛生学分野

(Department of Preventive Dentistry and Dental Public Health)

指導教授：山本 龍生 (Tatsuo Yamamoto)

連絡先：

Yamamoto.tatsuo@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本口腔衛生学会理事長・代議員・指導医・専門医・認定医
社会歯科学会評議員、日本歯科医療管理学会代議員、神奈川歯科大学学会理事・評議員
International Association for Dental Research 会員、日本公衆衛生学会会員
日本産業衛生学会会員、日本歯周病学会会員、日本老年歯科医学会会員
主な著書：ボケたくなければ「奥歯」は抜くな

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

本分野の指導目標は、科学者として必要な問題を発見し解決する能力を身につけていただくことである。特に、人を対象とする研究（臨床研究や疫学研究）の計画を立案するところから、研究の実施、統計解析、学会発表および論文発表の全ての過程を、主体的に実施し、経験していただく。これらの経験を通じて、大学院の修了後も、科学的なものの見方、考え方を身につけて、問題発見、問題解決ができるようにする。

なお、人を対象とする研究を行うには、統計学の基本を理解し、様々な研究計画と分析方法を修得することが必須である。そのために、多変量解析を含めて様々な分析方法を理解し、研究計画との論理的な関連付けができるようになっていただく。

研究内容

本分野は、「一生自分の歯で食べられる社会」を実現するために、主に疫学的手法を用いて、歯科口腔保健を推進するための研究を行っている。

▶ 健康の社会的決定要因に関する研究

日本老年学的評価研究（高齢者の大規模追跡調査）に参加し、様々な分野の研究者や行政の担当者と連携して、歯科における健康格差や、健康の社会的決定要因について検討している。これまで歯数・口腔機能と認知症、転倒、要介護、抑うつなどとの関係を論文発表している。

▶ 職域における歯科保健活動の効果検証

唾液を検体として60秒で歯周病のリスク判定を行う試験紙を開発し、「つまようじ法」という独自のブラッシング方法による保健指導を行う歯科保健プログラムを開発した。このプログラムを職域に導入し、その効果を医療経済的に検討した。試験紙の性能の評価も行っている。

▶ 歯周病と糖尿病に関する研究

全国臨床糖尿病医会と共同で、歯周病と糖尿病の関連についての研究を行っている。また、千葉県保険医協会と共同で、歯周病と糖尿病に関する医科歯科連携に関する政策的研究も行っている。

▶ オーラルフレイルに関する研究

神奈川県および神奈川県歯科医師会と共同で、オーラルフレイルに関する研究を行っている。また、県内の行政機関とも共同で研究を行っている。

社会人に対しての特記事項

募集なし

法医学分野 (Department of Forensic Medicine)

指導教授：長谷川 巖 (Iwao Hasegawa)

連絡先：i.hasegawa@kdu.ac.jp

研究プロフィール

医師・博士 (医学)
日本法医学会法医認定医
厚生労働省死体解剖資格
日本医師会認定産業医
大阪大学大学院医学系研究科招へい教授
昭和医科大学医学部法医学講座客員教授

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

本分野では、法医学に従事する医療者として必要な知識と技術を身につけていただき、修了後も、法医学の学位取得者 (博士) として、社会の課題に対応できる人材を養成することを目的としている。

また、警察官や検視官、検事、弁護士等、司法に関連する専門家との接点も多く、良好かつ円滑なコミュニケーション能力と、科学的根拠に基づいた法医学的な意見を述べる能力を身につけていただく。

研究内容

- CT 等、画像診断技術を応用した病態解明
- DNA 鑑定
- 法医解剖によって得られるヒト由来資料の研究

社会人に対しての特記事項

本分野では、実際に法医解剖に立ち会い、警察や司法に携わる人との交流を通じて、実際の社会で使える特殊技能を身につけていただくことから、時間的制約の多い社会人には、負担が大きいと予想されます。しかし、日本でもまれな、常勤の医師と歯科医師がいる、医科歯科連携による神奈川剖検センターを有する当法医学分野での大学院生活は、得がたい経験になると確信しております。学位取得のみが目的であるかたには、不向きです。将来にわたって、法医学という学問体系を通じて、社会に貢献できる人材を育成することが、私どもにとって重要なミッションであることを確信しておりますが、同時に、学問を通じて社会に貢献したいという、強い「志 (こころざし)」のあるかたに、来ていただきたいと思います。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

糖尿病・内分泌内科学分野 (Department of Diabetes and Endocrinology)

指導教授：青木 一孝 (Kazutaka Aoki)

連絡先:k. aoki@kdu. ac. jp

研究プロフィール

1996年 信州大学 医学部 卒業

1999年 横浜市立大学大学院 卒業

2013年 横浜市立大学附属病院講師 臨床試験支援管理室室長 臨床薬理センター長

資格：総合内科専門医 日本糖尿病学会専門医・指導医 日本内分泌学会専門医・指導医 日本臨床薬理学会 指導医

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

科学的根拠に基づいた医療を行うための知識、技術、態度を身に付けることが本分野の目標です。「糖尿病・内分泌学分野の英語論文を読みその内容を理解する」、「学会発表」、「論文を書く」といったことが出来るように指導を行います。

修了後も様々な課題に対して対応できる医療人となることを期待しています。

研究内容

2型糖尿病患者は非常に多く、歯周病との関連性も指摘され、国内のみならず国際的にも大きな問題となっています。その問題に対処するため、基礎と臨床の両面から研究を行っています。

➤ 基礎研究

副腎アンドロゲンである Dehydroepiandrosterone (DHEA) の抗糖尿病作用に関する研究を行っています (Aoki K et al. Diabetes, 1999、Aoki K et al. Endocr J, 2000、Aoki K et al. Life Sci, 2004、Aoki K et al. J Steroid Biochem Mol Biol, 2016)。

➤ 臨床研究

糖尿病治療薬の薬理作用に着目した研究や服薬アドヒアランス向上を目指した研究を行っています (Aoki K, et al. Diabetes Obes Metab, 2008、Aoki K, et al. Endocr J, 2020)。

社会人に対しての特記事項

糖尿病・内分泌学分野に興味を持った意欲ある社会人の入学を希望しています。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

高血圧症・腎臓内科学分野 (Department of Nephrology and Hypertension)

指導教授：橋本 達夫 (Tatsuo Hashimoto)

連絡先:hashimoto@kdu.ac.jp

研究プロフィール

ダノン健康栄養財団学術研究助成金受賞 (2018)

第 31 回日本高血圧学会 YIA 優秀賞

第 5 回動脈硬化 Update 研究助成、日本心臓財団

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓学会腎臓専門医

日本透析医学会透析専門医

主な著書：歯周治療と生活習慣病、日本歯科評論 2021

主な論文：ACE2 links amino acid malnutrition to microbial ecology and intestinal inflammation. Nature, 2012

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

本分野では、研究者としての近代科学的素養を身に付けていただき、終了後には各界において課題解決能力を養成することを目的としている。

特に、課題発見、情報収集、データ分析、そして課題解決能力を養う。

具体的には、論文読解力、魅力的なプレゼンテーション能力、論文の書き方をマンツーマンで行う。

研究内容

慢性腎臓病の新規画像診断法

慢性腎臓病は5人にひとりが罹患している国民病である。血清クレアチニンと尿蛋白でステージ分類され、末期には人工透析が必要となる。腎炎や間質性腎炎には免疫抑制療法が有効なことがあるが、診断には腎生検が必須であり、有用な画像診断法がない。近年、MRI 検査によって臓器の虚血や線維化の程度を非侵襲的に診断することが可能となった。このMRI 検査を用いて腎障害の程度が推定できることが分かってきた。さらには原疾患の推定までできる可能性がある。慢性腎臓病の新規画像診断法を検討している(右図参照タウンニュース 2021年11月)。



慢性腎臓病は8人にひとりが罹患している国民病。放置しておくとうる未来に人工透析に至るリスクがある。糖尿病、高血圧などが主な原因で、貧血、狭心症、骨粗しょう症などを合併する。慢性腎臓病による高リン血症の悪化は寿命と逆相関しており、腎臓が寿命を左右するともいえる。定期的な通院と食事、睡眠、運動、そして血圧管理が大切になる。そんな腎臓病の診断に有用なのがMRI検査だ。「腎臓の酸素濃度や腎血流量を可視化できる」と神奈川県立川崎大学附属病院腎臓内科の橋本達夫教授II写真。カラー診断の活用で支援する。

腎臓の変化をMRIで見抜く

神奈川県立川崎大学附属病院

腎臓の病気が自覚症状が現れにくい。「沈黙の臓器」とも呼ばれており、無症状のまま病気を悪化させてしまうケースが少なくない。ところが最近になって腎臓を可視化する技術が著しく進化しているという。

慢性腎臓病は8人にひとりが罹患している国民病。放置しておくとうる未来に人工透析に至るリスクがある。糖尿病、高血圧などが主な原因で、貧血、狭心症、骨粗しょう症などを合併する。慢性腎臓病による高リン血症の悪化は寿命と逆相関しており、腎臓が寿命を左右するともいえる。定期的な通院と食事、睡眠、運動、そして血圧管理が大切になる。そんな腎臓病の診断に有用なのがMRI検査だ。「腎臓の酸素濃度や腎血流量を可視化できる」と神奈川県立川崎大学附属病院腎臓内科の橋本達夫教授II写真。カラー診断の活用で支援する。

社会人に対しての特記事項

本分野では、後ろ向き研究を主体とするため、時間的制約の多い社会人でも終了できるよう指導できる。

特に現在の職種やこれまでの経歴を生かした研究テーマを選定するので、意欲ある社会人の入学を希望している。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

歯内療法学分野 (Department of Endodontics)

指導教授：室町 幸一郎 (Koichiro Muromachi)

連絡先:muromachi@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本歯内療学会 専門医 (第 2014332 号)、指導医 (第 121 号)

日本歯科保存学会 認定医 (第 644 号)

日本顕微鏡歯科学会 理事、認定医 (第 199 号)

日本 CCN ファミリー研究会 幹事

平成 28 年度日本歯科保存学会 奨励賞

第 55 回歯科基礎医学会サテライトシンポジウム シンポジスト

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

歯内療法学は歯髄疾患と根尖歯周組織疾患の成立と病態を理解し、診断、予防、治療を探求して歯を口腔内に保存することを目的とする歯学の一分野である。

当分野では、大学院生が医療従事者として優れた人格を涵養しつつ、自立して研究活動が遂行できる能力を身につけることを目標とする。すなわち、先人の研究で得られた知見 (論文やデータ) を検索して読解し、未解決の問題点を抽出して研究仮説として設定し、検証するための手法を身につけ、得られた結果の省察に基づく新たな知を創造し、学会発表や学術誌への論文掲載として社会へ還元する能力を養うことを目標とする。加えて、未来の歯科医学界を牽引するリーダーを育成することを目標とする。

同時に、臨床の分野として歯内療法に精通した専門医の育成にも取り組む。広告可能な日本歯科専門医機構の歯科保存専門医、関連学会 (日本歯内療学会、日本歯科保存学会、日本顕微鏡歯科学会) の専門医・認定医の取得を支援する。

研究内容

・ 象牙質-歯髄複合体における創傷治癒バイオマーカーの探索と生物学的覆髄剤の開発

ヒト歯の象牙質-歯髄複合体において bone morphogenetic protein (BMP)-1 の発現が亢進することを明らかにしている (Muromachi *et al.*, 2015)。BMP-1 はタンパク質分解酵素として象牙質を構成するタンパク質 (Type I collagen、DSPP、DMP-1) の成熟に関与するが、BMP-1 の新たな役割としてヒト歯髄培養細胞の DNA 複製や細胞周期に関わる遺伝子の発現に関与することを明らかにしている。この過程において glucosylceramidase (GBA1) が核移行することを見出しており、その際に重要な核移行配列 (nuclear localization signal; NLS) のペプチドを覆髄剤として応用できる可能性を検討している。

・ 家族性 Multiple idiopathic cervical root resorption の遺伝学的病態理解と責任遺伝子の同定

歯根外部吸収の稀な例として原因不明に侵襲性歯頸部外部吸収が多発する multiple idiopathic cervical root resorption (MICRR) がある。家族性に MICRR を発症した家系の全エクソーム解析を行い、高病原性の候補遺伝子を同定している (Muromachi *et al.*, 2023、共同研究者：山口徹太郎教授、朴 熙泰助教 (歯科矯正学分野))。破骨細胞培養系において候補遺伝子のノックダウンを行い、破骨細胞の分化、増殖、骨吸収活性におよぼす影響を検討している。

社会人に対しての特記事項

自発的に研究活動を行うことができる意欲のある社会人の入学を歓迎します。研究テーマやスケジュールについて相談に応じます。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

歯周病学分野 (Department of Periodontology)

指導教授：小牧 基浩 (Motohiro Komaki)

連絡先:m.komaki@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本歯周病学会執行役員・常任理事・評議員

日本歯科保存学会理事

日本歯周病学会認定指導医 324 号

日本歯科専門医機構認定専門医第 2-941 号

日本再生医療学会認定医 M1-2021-00281 号

日本歯科医学会評議委員

歯学系学会社会保険委員会常任委員

日本歯科医師会保険適用検討委員会委員

厚生労働大臣認定再生医療委員会常任委員

研究分野：骨細胞生物学、幹細胞生物学、分子生物学、血管新生

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

歯周病学分野では、歯周病の診断と診療に必要な基礎知識の習得と、臨床で生じた課題に対して仮説と実証を行うことができる人材の育成を目指しています。

大学院では、研究遂行に必要な論文検索法、論文（データ）の読み方、研究仮説の立て方、証明に必要な解析法（観察研究、動物実験手法、形態計測法、免疫組織学的解析法、細菌学的解析法、細胞生物学的解析法、分子生物学的解析法など）の手技ならびに理論的背景を学び、学会発表と論文作成によって研究成果を社会に還元する。これらの過程を通じて、臨床における課題（疑問）に対して仮説と実証が行える人材を育成します。

研究内容

- 歯周病と全身疾患の関連に関する臨床的・基礎的研究
 - ① 認知症と歯周病との関連に関する基礎的研究
 - ② 歯周炎と低体重児出産に関する基礎的研究
 - ③ 歯周炎と加齢に関する解析
 - ④ 微生物膜外小胞に関する研究
- 歯周組織の維持・再生に関する基礎的研究
 - ① 歯肉退縮に関する基礎・臨床的検討
 - ② 幹細胞の細胞外膜小胞を用いた組織再生効果に関する研究
 - ③ PRP、PRF、骨髄濃縮液を用いた歯周組織再生療法に関する臨床的検討
- 静菌プレートの口腔と腸内細菌に対する作用に関する基礎・臨床的検討
- 歯周病における画像診断（トモシンセシス法）の基礎・臨床的研究

社会人に対しての特記事項

社会人大学院生には可能な限り時間的制約の少ない研究テーマを選定します。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

有床義歯補綴学分野 (Department of Removable Prosthodontics)

指導教授：井野 智 (Satoshi Ino)

連絡先: ino@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本補綴歯科学会評議員・指導医・補綴歯科専門医
日本接着歯学会評議員・指導医・接着歯科治療専門医
ドイツ・ミュンヘン大学歯学部 (保存修復学)・特別研究員 (1997年7月～1998年8月)

メインテーマ：ミニマルインターベンション (MI) に基づくノンメタル材料による歯冠補綴から有床義歯補綴法の開発

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

あらゆるデジタル技術が急成長する一方で、欠損補綴を必要とする患者さんは増加の一途をたどっている。当分野では、補綴臨床のニーズに貢献できる臨床に直結したテーマに焦点を絞り、先行研究を熟知した上で自由な発想かつ独創性のある研究に取り組むことで、生涯にわたって、患者さんの抱える問題 (疾患) をより深く・科学的に洞察して理解 (症例の問題点の抽出・診断) し、解決 (治療技術) するための能力を養うことを目的にしている。また、広告開示が可能となった「補綴歯科専門医」の取得に向けた基礎的知識・技能・態度の習得ができる体制を整えている。

研究内容

当分野で取り組んできた研究テーマは以下の通り。

- ハイブリッド型コンポジットレジンによる CAD/CAM クラウンの開発
- Minimal Intervention に基づく各種接着剤の重合評価
- ジルコニアセラミックスの特性に配慮した表面加工法
- チタン表面加工の評価
- ノンメタルクラスプデンチャーの特性評価
- レジンコーティング法の CAD/CAM クラウンへの応用

現在進行中の研究テーマは以下の通り。

- デジタル頭蓋骨格モデルにおける機能的咬合平面の評価
- セルフクリーニングデンチャーの開発
- スポーツマウスガードによる姿勢と競技力向上への効果解析
- 口腔機能低下症の診断と治療法の開発

社会人に対しての特記事項

募集なし

口腔外科学分野 (Department of Oral and Maxillofacial Surgery)

指導教授：末永 英之 (Hideyuki Suenaga)

連絡先：suenaga@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本コンピュータ外科学会 評議員
日本口腔外科学会 専門医・指導医
日本口腔科学会 認定医・指導医
日本顎変形症学会 認定医・指導医

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

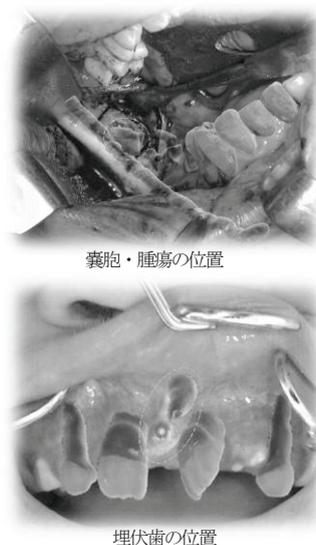
本分野では、次世代の口腔外科専門医・研究者を育成するため、以下の能力を養成します。
異分野連携の研究推進力：工学、情報科学、臨床医歯学等の融合的思考力と協働力を養成し、革新的な研究を推進する力を育てます。
臨床課題を科学的に解決する能力：医療現場の課題を発見し、技術的手段をもって解決策を立案・実施できるスキルを培います。
科学的探求心と批判的思考力：研究課題を設定し、データ解析や考察を通じて科学的根拠を明確化する力を育てます。
リーダーシップとチームマネジメント力：研究プロジェクトや臨床チームを主導し、メンバーと協力して課題を解決する能力を涵養します。

研究内容

本分野は、口腔および顎顔面領域における外科的治療と研究を主軸に、先端技術を活用した臨床応用の推進を目指しています。

マーカーレス拡張現実 (AR) 手術支援システムの開発と臨床応用

マーカーレス AR 技術を用いた手術支援システムの開発に注力しており、特許技術 (特許第 6566420 号、米国特許 US 10, 492, 872 B2) を基盤とした高精度で安全な手術ナビゲーションの臨床応用を進めています。マーカーレス AR とは、従来のマーカーを用いた認識技術に代わり、歯の解剖学的特徴を基にリアルタイム位置合わせを実現する技術です。この技術は、術中の視野に CT 画像やシミュレーション画像をリアルタイムで重畳表示することにより、術者の空間認識を支援し、手術精度を向上させるものです。術野カメラと画像処理技術を活用し、現実空間と 3D-CT 画像を統合する新しい手術支援技術を研究します。これまでの口腔外科領域における臨床使用例を基に、歯科矯正、外科的歯内療法、歯学教育などマーカーレス AR 技術の新たな臨床応用可能性を探索し、診療および教育支援の幅を広げていきます。



光とトキシンを用いるがん治療法 (イムノトキシン内在化法) の開発 骨再生に関する研究

その他、口腔外科に関連する多岐にわたる研究課題に対応しており、既存の研究テーマに加えて、新たな臨床ニーズや技術革新に応じたテーマ設定を柔軟に行います。

社会人に対しての特記事項

臨床経験を有する社会人の方の大学院進学も歓迎しております。
実務経験を研究に活かせるテーマ設計：臨床や開発の現場で得た知見を研究課題として昇華させる指導を行います。
特許取得・事業化を目指す研究サポート：研究成果の実用化を意識した特許取得・事業化支援も積極的に行います。
※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

歯科矯正学分野 (Department of Orthodontics)

指導教授：山口徹太郎 (Tetsutaro Yamaguchi)

連絡先:t.yamaguchi@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本矯正歯科学会 代議員。編集委員会 委員。卒後教育委員会 (全国歯科矯正学教育審議会) 委員。東京矯正歯科学会 理事。日本矯正歯科学会 認定医・指導医。日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医。日本顎関節学会 専門医。日本歯科審美学会 認定医。

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

本分野では、矯正歯科臨床における課題に対して、ひいては より良い治療に貢献しうる課題に取り組めます。そもそも より良い診療を実践するためには、これまでに明らかになっていることを理解しておくとともに、同時に明らかになっていないことについても認知しておく必要があります。そのための科学的に考えること、論理的に考えることを学んでいきます。これを涵養するための手段として研究を行うこと、すなわち徹底的に調査する、解析する、発表する、論文化することを学びます。

研究内容

- 顎口腔領域の形質 (性質や特徴) に関与する遺伝子の探索
- コーンビーム CT 画像による顎口腔領域の形態計測
- CAD/CAM による口腔内装置の開発ならびにその特性に関する研究
- 人工知能の矯正歯科臨床への応用
- 顎顔面成長発育についての数理的解析と予測
- AR 技術の矯正歯科臨床への応用
- 矯正歯科臨床がもたらす細菌叢変化の解明
- 矯正歯科臨床がもたらすエピジェネティクス変化の解析
- 歯科矯正用アンカースクリューの脱落因子の追求

社会人に対しての特記事項

事前に十分、課題、スケジュール等について検討します。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

口腔再生インプラント学分野
(Department of Regenerative Implant Dentistry)

指導教授：黒田 真司 (Shinji Kuroda)

連絡先：s.kuroda@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本口腔インプラント学会 代議員・専門医・指導医
日本再生医療学会 認定医
国際口腔インプラント学会 理事
口腔病学会 評議員
日本補綴歯科学会
日本顎顔面インプラント学会

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

高き人格と豊かな識見を養い、高度の学術理論及び技術を教授・研究し、有能な歯科医師を育成することを目的としている。大学院生が研究を進めるために必要な基本的な知識と技術の教育プログラムを立て、つまり科学論文の読み方、実験計画の立て方、実験におけるタイムポイントやサンプル数の決め方、データの解析法、論文の書き方を教え、歯科臨床の発展に貢献できる Scientific Clinician および Clinician Scientist を育成したいと考えている。このような大学院教育のゴールはやはり、研究と同様、臨床の技術を向上させ、患者さんを助けることができると考える。

欠損補綴のツールの1つとして口腔インプラントの利点・欠点を幅広く考察し、治療計画を立てることができる歯科医師を育成する。

研究内容

- 咬合と全身の関連：身体重心動揺と咬合の動的解析
- 欠損補綴装置の理想的デザインの考察

将来目標

- 生体材料 (ナノカーボン等) の応用：生体反応解明 + 骨再生 (脂肪組織由来幹細胞の骨芽細胞分化促進)
- インプラント周囲組織：咀嚼、咬合⇒生化学的変化 (免疫応答シグナル伝達機構、炎症)

社会人に対しての特記事項

学生の希望に沿うような研究テーマを選定します。意欲ある社会人学生を歓迎いたします。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

小児歯科学分野 (Department of Pediatric Dentistry)

指導教授：仲井 雪絵 (Yukie Nakai)

連絡先:nakai@kdu.ac.jp

研究プロフィール ※参照 <https://researchmap.jp/snowpicture12>

日本小児歯科学会 小児歯科専門医・指導医, アメリカ小児歯科学会 associate member, 日本歯科医学教育学会 代議員, 日本口腔ケア学会 評議員 等

【主な著書】・「マイナス1歳」からはじめるむし歯予防, (株) オーラルケア.

・今日の治療指針 2025年度版 Vol.67 p.1627-1628「口腔機能発達不全症」, 医学書院. 等

【主な論文】

・ Nakai Y et al.: Xylitol gum and maternal transmission of mutans streptococci. *J Dent Res* 89(1):56-60, 2010.

・ Shinga-Ishihara C, Nakai Y et al.: Xylitol carryover effects on salivary mutans streptococci after 13 months of chewing xylitol gum. *Caries Res* 2012;46(6):519-522. 等

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

本分野における指導方針は、小児歯科学の専門的知識と技術、そして公共的使命と社会的責任を有する歯科医師を育成すること、さらに、国際的視座からわが国の小児歯科医療の発展と向上をはかり、小児歯科医療・保健の充実と増進に寄与する人材を育成することです。そのために自らのリサーチクエストに関する情報の収集とそれを批判的に吟味する力を養うために学術論文を抄読し、人を対象とする研究に必要な研究倫理審査の申請方法の理解を深め、研究計画の策定と研究の遂行、データの扱い方、統計学的分析、学会発表でのプレゼンテーション、学術論文にまとめるプロセスの主体的実施を通して、優れた臨床専門医に必要なリサーチマインドと問題解決能力を醸成していただきます。

研究内容 ※これまでに実施してきた研究内容の一部を紹介します

➤ 周産期口腔管理の有効性に関する研究

産婦人科医院の協力を得て、妊婦にキシリトール入りガムを用いて予防介入を行う無作為化比較研究を行い、その研究成果は国際学術雑誌に掲載されました。その後、同論文は3つの国際誌に刊行された周産期口腔管理の有効性に関するシステムティック・レビュー論文に、科学的エビデンスとして挙げられました。

➤ 小児齲蝕の予防に関する研究

乳幼児歯科健康診査事業の経年データを活用し、齲蝕リスクの経年変化と齲蝕罹患性の関連性を検証した研究、また食事因子の面から齲蝕リスクを測定するツール **FFQ** の日本語版を作成し、日本人の成人集団および小児集団における信頼性と妥当性を実証しました。

➤ 小児における歯科恐怖症に関する研究

生理学的指標、認知系指標、行動的指標を用いて歯科治療中の患児の情動変化を分析した研究、および、米国の小児歯科専門医におけるペインコントロールの実態調査を行いました。また **CFSS-DS** の日本語版を作成して歯科恐怖度の国際比較を可能とし、また大規模疫学調査の結果によって日本人小児集団の水準を国際的に示しました。

➤ 他機関との共同研究

他大学の歯学部ならびに医学部の産婦人科医師・助産師と連携し、周産期口腔ケアを推進するための研究を、また歯科医院の臨床データを用いて長期メンテナンスの有効性に関する研究を行っています。水が貴重な宇宙空間における効果的な口腔健康管理法を開発するための宇宙歯学研究も他の歯学部と開始しました。

社会人に対しての特記事項

自己実現に向けて、生涯にわたり歯科医学・歯科医療の発展に寄与するための高い学習意欲を持ち、長期的・短期的課題を設定して粘り強く研鑽を積むことができる方を希望します。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

歯科麻酔学分野 (Department of Dental Anesthesiology)

指導教授：脇田 亮 (Ryo Wakita)

連絡先:wakita@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本歯科麻酔学会代議員

日本障害者歯科学会代議員

日本歯科麻酔学会認定医・専門医・指導医

日本障害者歯科学会認定医・認定医指導医

主な著書：BMC Oral Health, 24(1), 1165, 2024.

Journal of Clinical Medicine, 11, 3963, 2022.

Journal of Materials Chemistry B, 7, 7026-7032, 2019.

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

本分野では、臨床医が研究をする意義を考え、臨床医が研究をするために必要なスキルを身につけることを目的としています。すなわち、大学院修了時までには、日常臨床において自らが直面した素朴な疑問を出発点とし、仮説をたて、適切な方法でその仮説を検証し、成果を公表する能力を身につけます。この行程は、臨床医が患者を診察し、患者の状態を診断し、治療を行い、その結果を検証するという手順とも一致します。そのため、大学院の仮説を検証する能力の習得は、臨床医としての知識技能を効率的に向上させることが期待できます。

抄読会で論文の構成を学び、教室内発表会や学会発表で実際に自らの仮説検証を組み立てることで、プレゼンテーション能力を学習します。研究や臨床において課題を解決するための様々なものの見方が身に付くように教員全員でサポートします。具体的な研究テーマは個々の希望を重視しますが、歯科医師が麻酔管理をする意義や専門性を示すことができる研究テーマを選定していきます。また在学中に臨床での専門資格として日本歯科麻酔学会認定医の取得を目標とします。

研究内容

- 局所麻酔の生体反応や投与法に関する研究 (脇田)
局所麻酔の投与による、生体反応の変化を早期把握する方法や異常な反応に影響する因子を検討しています。また、薬剤担持型材料の開発と電場の印加による低侵襲の薬剤投与法を検討しています。
- 漢方生薬に関する研究 (脇田)
代替医療としての可能性を秘めた漢方生薬の新たな機能解析を、気管支平滑筋細胞を用いて検討しています。
- 医療事故の原因解明や医薬品の副作用に関する研究 (今泉)
公開データベースを用いて、全身麻酔や鎮静法の事故原因や薬物の副作用に関する検討を行っています。
- 局所麻酔薬の抗酸化作用に関する研究 (黒田)
局所麻酔薬の持つ抗酸化作用が周期期にどのような影響をもたらすのかを研究しています。
- 慢性疼痛のメカニズム解明 (黒田)
神経障害性疼痛や痛覚変調性疼痛の多くは慢性的な症状を示し患者の QOL を低下させますが、そのメカニズムについては不明な点が多くあります。星状神経節ブロックや亜酸化窒素吸入で疼痛が緩和できる病態をモデルにして、慢性疼痛のメカニズム解明を行っています。また、三叉神経節細胞を用いて神経障害性疼痛の機序や治療薬の研究をしています。

社会人に対する特記事項

本分野では、各学生の希望をできるだけ優先し、修了できるよう丁寧に指導していきます。各学生にフィットする歯科麻酔科学における研究テーマを選定しますので、意欲ある社会人の入学を歓迎いたします。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

障害者歯科学分野 (Department of Dentistry for the Special Patient)

指導教授：小松 知子 (Tomoko Komatsu)

連絡先：komatsu@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本障害者歯科学会副理事長
日本老年歯科医学会代議員・日本ダウン症学会理事
日本歯科薬物療法学会理事・日本抗加齢医学会評議員
日本障害者歯科学会専門医指導医 第5号
日本老年歯科医学会老年歯科専門医制度指導医 第141号
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 第110299号
日本歯科薬物療法学会専門医 D0080号
日本抗加齢医学会専門医 第1554号

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

本分野では、研究者として最低限必要な研究スキルを修得していただき、修了後も各界で様々な歯科医学的課題に対して対応し、将来リーダーとして活躍できる人材を養成することを目的としています。特に、医療技術の発展に伴い多様化した障害や病態において、歯科が対処すべき様々な課題をエビデンスに基づいた論理的思考を基盤として臨床研究技法を修得していただきます。

臨床研究を遂行するために必要な医療倫理、研究倫理への理解を深め、倫理審査申請の書き方、研究の進め方、学会でのプレゼンテーション、論文作成のスキルを養成します。また、フィールドワークを通して、多職種連携を理解し、実際の現場での機会を経験することで、地域医療連携についての理解を深め、地域医療活動における様々な課題に対して対応でき、地域医療におけるリーダーとして活躍できる人材を養成します。

様々な障害児・者の口腔および全身の特徴を理解するとともに、その病態の原因となる因子に関する最新の研究成果に触れ、新たな検査法、予防法の開発に携わることで、自らの研究能力を高め、科学的根拠に基づいた知識と論理的な思考力を身につけることができるよう指導します。

研究内容

➤ 酸化ストレス病因論と検査法、治療法の開発

Down 症候群患者、高齢者、若年者の歯肉線維芽細胞および唾液を用いて、電子スピン共鳴 (ESR) 法による活性酸素産生能、消去能を評価し、歯周病の病態メカニズムの解明および歯周病における抗菌・抗酸化併用療法の開発や摂食嚥下機能およびオーラルフレイル・フレイルに及ぼす影響を解明し、新たな検査法、治療法・機能療法・栄養療法の開発を目指しています。

➤ 高齢者、障害者の摂食嚥下機能と脳機能の関連性の評価と機能低下予防に関する研究

fMRI や嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査による評価と摂食嚥下機能療法の有効性を検証し、全身の健康や疾患にも有効な摂食嚥下機能療法の開発を目指しています。

➤ 障害児者・高齢者の在宅歯科医療における多職種協働ネットワーク構築に関する調査研究

障害児者の歯科医療・摂食嚥下機能療法における地域医療ネットワーク構築と連携を円滑に行うための調査研究や、オンライン診療や DX を含めたネットワーク ICT システムを構築するための臨床研究を目指しています。

社会人に対しての特記事項

本分野では、実際に多数の教育・研究プログラムがあることから、時間的制約の多い社会人には各自、自主的に興味のある研究課題を選択ができるよう、各々の兼務する職種の制約に応じた学生の希望をできるだけ優先して、修了できるよう最後まで丁寧に指導していきます。特に、現在の職種やこれまでの経歴を生かした研究テーマを自身の希望をしっかりと聞きまして、選定するようにしますので、意欲ある社会人の入学を希望しています。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

クリニカル・バイオマテリアル学分野 (Department of Clinical Biomaterials)

指導教授：二瓶智太郎 (Tomotaro Nihei)

連絡先:nihei@kdu.ac.jp

研究プロフィール

- ・日本歯科理工学会理事長・理事・代議員
Dental Materials Senior Adviser (第 124 号)
- ・日本接着歯学会理事長・代議員
接着歯科治療専門医 (第 161 号)・指導医 (第 24 号)・専門医認定研修施設長 (A4101)
- ・日本デジタル歯科学会代議員
- ・日本歯科保存学会代議員
歯科保存治療専門医 (第 668 号)・指導医 (第 292 号)

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

本分野では、歯科臨床で使用される歯科材料、生体材料、および歯科機器に関わる基礎知識を修得し、さらに臨床に生かせるあるいは生かすための材料学と器械学を修得することを目標としている。そのためには、研究者としてのスキルを身につけ、課題に対する思考力を育成し、修了後も各界で様々な課題に対応できる人材を養成することを目的としている。

本分野では、毎週の大学院生セミナーを開催し、

- ・材料および機器の基礎教育
- ・各自の研究課題の進捗状況の確認ならびにその後の方針
- ・研究課題関連英論文の抄読会
- ・学会発表および論文発表

などを指導する。

研究内容

- **長期耐久性を有する歯冠修復・補綴用材料の開発**
歯冠修復・補綴用材料として、現在は様々な種類が臨床で用いられている。その中で CAD/CAM システムの導入になり、レジン、セラミックス、ジルコニアが臨床で頻用されている。長期において耐久性を有する材料の開発を目指している。
- **ジルコニア、セラミックスに対する接着性プライマーの開発**
ジルコニアやセラミックスが確実に支台歯に接着するような新規プライマーの開発を目指している。
- **骨伝導性バイオカップリング剤の開発と基礎的研究**
骨の再生を早期に促す新規バイオカップリング剤の開発を目指している。
- **レーザーを用いた新規治療法の開発**
様々なレーザー機器の歯への照射した効果を検索しつつ、高密度なエネルギーを使用した新たな治療法を開発を目指している。
- **CAD/CAM システムによる歯冠修復装置の臨床調査研究 (神奈川歯科大学倫理申請 No. 847)**
CAD/CAM システムによる歯冠修復装置装着後の予後調査し、材料開発を目指している。

社会人に対しての特記事項

本分野では、多数の教育プログラムがあり、時間的制約の多い社会人には負担が大きいですが、各学生の希望を可能な限り優先して修了できるように最後まで丁寧に指導していく。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

口腔デジタルサイエンス学分野 (Department of Oral Digital Science)

指導教授：星 憲幸 (Noriyuki Hoshi)

連絡先：hoshi@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本補綴歯科学会 代議員

日本口腔診断学会 理事

日本デジタル歯科学会 理事

日本義歯ケア学会 理事

日本唾液ケア研究会 評議員

主な著書：補綴・デジタルデンティストリーのための重要 10 キーワードベスト 200 論文
基礎から学ぶ CAD/CAM テクノロジー，スタッフ向け IOS 入門

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

本分野は、研究者としての基本的な姿勢と能力を修得することで、将来にわたり研究者としてだけでなく、様々な活躍が出来る人格形成と共に問題に向き合う姿勢と能力の基礎を身につけることを目的としている。

研究に対する計画立案や実施に必要な知識収集と技術の獲得や結果に対する PDCA による改善などを個別指導するとともに、学会での研鑽法や発表に必要な発表法の修得、様々な情報獲得のためのスキルとして、論文の検索・読解力の修得を行い、論文作成に必要な基礎的知識と技法を十分な時間と練習を行い、卒業まで手厚く丁寧な指導を行う。

研究内容

▶ 唾液と口腔内症状の臨床研究 (各種病態への新規開発)

唾液中の全代謝プロファイルを検索することで、口腔内に起こり得る各種病態・不快症状の早期診断に役立つ検査法を確立することを目指している。

▶ 新たな歯科診療確立のためのデジタル技術開発

デジタル技術は歯科診療に欠かせないものとなっている。しかし、未だ発展途上である診断・治療時のデータ活用法、ビッグデータ解析、患者とのコミュニケーションツール開発を行い、より高精度で安全となるような臨床的デジタル技術の開発を行う。

▶ 認知症・パーキンソン病の早期診断の開発

認知症やパーキンソン病は早期診断に苦慮する病気である。その早期診断の開発は急務であり、唾液代謝プロファイルを用いることで新たな早期診断方法の開発を行う。

▶ 光触媒技術の歯科応用と新規材料開発

歯科材料の開発と光触媒の応用により、より安全で確実な治療を行えるように材料開発と光触媒応用を行う。

社会人に対しての特記事項

本分野の研究は、臨床研究を主体としているため将来に役立つ研究であり、日常臨床を行いつつ研究することも可能である。ただし、様々な学修も必須のため学位取得まで細やかで丁寧な指導を行う。今までにも、社会人でも行える研究を選定して研究者として独り立ちしているので、是非研究マインドのある社会人の入学を期待する。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

高度先進口腔外科学分野

(Department of Advanced Oral and Maxillofacial Surgery)

指導教授：西久保 周一 (Shuichi Nishikubo)

連絡先:nishikubo@kdu.ac.jp

研究プロフィール

日本口腔外科学会 専門医・指導医
歯科医師臨床研修指導歯科医
がん治療認定医 (歯科口腔外科)
日本臨床細胞学会 細胞診専門医
東京歯科大学 口腔腫瘍外科学講座 非常勤講師
日本大学歯学部口腔外科学第1講座 兼任講師
AO Delegate

指導方針 (到達目標・大学院でどのような能力が身につくか)

大学院では、物事の本質を突き詰めるための考え方の構築の仕方を、研究、臨床を通して身につけて頂きます。特にプレゼンテーション能力の養成、論文執筆のスキルについてトレーニングをしっかりと行います。

研究内容

①顎矯正手術における顎骨周辺組織変化についての研究

呼吸生理を考慮に入れた顎矯正手術における周辺組織の変化について、手術前後を比較し、その変化について細かく検討している。多くの潜在的な閉塞性睡眠時無呼吸症患者の潰れない気道を作るための研究を行っています。

Shouhei Ogisawa, Shuichi Nishikubo, et al. : The changes in oral volume and hyoid bone position after maxillomandibular advancement and genioglossus advancement for patients with obstructive sleep apnea, Sleep and Breathing, doi: 10.1007/s11325-022-02600-7, 2022.

②顎変形症が原因の閉塞性睡眠時無呼吸症に対する外科手術療法について

私たちの講座の得意とする領域は、顎変形症が原因の閉塞性睡眠時無呼吸症候群です。その予備軍から発症している患者まで多くの患者を対応しております。その手術方法は近年、少しずつ改良が重ねられております。より効率の良い治療方法を模索し、日々改良を重ねております。補助的な筋機能訓練などを交えて、より良い術式に改良するよう研究を行っています。

Shuichi Nishikubo, Shouhei Ogisawa, et al: New method of Le Fort I osteotomy with increased stability. Journal of Oral Science, 63, 298-330, 2021.

社会人に対しての特記事項

本大学の大学院では多数の教育プログラムが課せられているため、社会人には負担が大きくなっております。それが可能な社会人に対しては、研究テーマをしっかりと選定し、最後まで丁寧に指導を行います。意欲のある社会人の入学をお待ちしております。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。